

工大広報

No.255
Autumn 2009
2009年11月27日発行
(年4回発行)



第34回

工大祭「JOINT」開催

学生の自主活動紹介⑫



イメージワークショップ写真展「R45—ひと・街・道—」

イメージの共有

三好 真由(情報通信工学科 3年)



壹式参横丁パンフレット制作

おおば ゆりえ
大場 由莉絵(デザイン工学科 菊地研究室 4年)
いわきり いわみ
岩切 泉(デザイン工学科 弁岡研究室 4年)

表紙写真:大学祭実行委員会のみなさん(大学祭当日八木山キャンパスにて)



創造から統合へ 仙台からの発進
東北工業大学



第34回

工大祭「JOINT」開催

日時:2009.10.17(土)・18(日)10:00~15:00 会場:八木山キャンパス・長町キャンパス

今年で第34回の工大祭のテーマは「JOINT」ということで、繋がりを意識した企画を多く用意しました。

学生が企画・運営した工大祭を幅広い年齢の来場者に楽しんでいただき、テーマのとおり繋がりのある工大祭となりました。



ポスター・デザイン
パンフレット長
かとう けいすけ
勝見 将土
大学祭実行委員長
建設システム工学科 3年
加藤 圭祐(デザイン工学科 3年)

工大祭を振り返って



かさい 重信
葛西 重信
学生部次長
環境情報工学科 准教授

第34回工大祭は八木山、長町の両キャンパスで行なわれました。今年から学科屋台が始まり、屋台の数が増え、北海道工業大学からのジンギスカン屋台も大変好評を得ました。学生、教職員、地域の皆様、北海道工業大学の皆様のまさに「JOINT」があって行なわれた大学祭であったと思います。今回の大学祭では例年以上に企画が増えて実行委員会は連絡など苦労した点があったと思いますが、来年に活かしていくべきと考えています。ご協力及びご来場いただいた皆様、本当に感謝を申し上げます。



かつみ まさと
勝見 将土
大学祭実行委員長
建設システム工学科 3年

第34回工大祭「JOINT」は、皆様のおかげで無事終えることができました。

今年の実行委員は3年生が少なかったり、新しい企画に挑戦したりと不安になることがたくさんありました。しかし、我々、実行委員は一丸となって無事に工大祭を運営することができました。今年の1年間は私にとって最高の思い出です。工大祭にご協力していただいた方々に実行委員一同、心から感謝申し上げます。ありがとうございました。

工大祭を振り返って

幼稚園企画

かも かおり
加茂 香央里幼稚園企画 幼稚園企画長
建築学科 3年

今年は、おかしのいえというテーマを掲げ、それに沿った企画物を制作しました。参加幼稚園がなかった中、たくさんの子どもたちに楽しんでもらうことが出来ました。おかげで本当にすばらしい企画となり、例年以上に盛り上りました。

ステージ企画

ふゆむろ よしあき
冬室 佳明ステージ企画 ステージ企画長
知能エレクトロニクス学科 3年

今年の大学祭のテーマ「JOINT」に合わせて、ステージ企画ではお客様との繋がりを意識した企画をしました。特に、後夜祭のメイン企画では、ポスターにも描かれていたコンセントを使った企画が大成功でした。

後夜祭企画

しもやま せいごう
下山 世剛後夜祭企画 後夜祭司会
建設システム工学科 3年

初めての司会でとても緊張しましたが、準備した抽選券がすべてなくなり、2つの企画とも大変な盛り上がりに緊張感も消えました。無事に後夜祭を終えることができ、来年以降も後夜祭企画をどんどん盛り上げていって欲しいと思いました。

学科企画

さとう まさき
佐藤 将紀学科企画 一般企画長
知能エレクトロニクス学科 3年

今年から各学科に協力していただき、学科横丁(屋台)を実施しました。また、昨年に引き続きオープンキャンパスも工大祭と同時開催されました。例年以上に来場者も増え、より一層工大祭が盛り上りました。

野外特別企画

かねはら たつろう
金原 達朗野外特別企画 野外特別企画長
建設システム工学科 3年

フリーマーケットでは昨年より出店者数が少なかったものの、占い・似顔絵・手作りの小物や洋服の出店など中身の濃いものになりました。恒例の林家久蔵師匠席は昨年より若い方が多く、老若男女楽しんでもらえました。

コンサート企画

さとう そう
佐藤 創コンサート企画 コンサート企画長
情報通信工学科 2年

弾丸ジャッキー 江頭2:50と副総裁

今年は不景気の影響で2組しかゲストを呼ぶことができませんでしたが、その少ない枠をアンケートで厳選し、見事昨年の5割以上増しの1,500人以上の集客に成功しました。今回、お越しくださいました皆様、ありがとうございました。

スポーツ大会を終えて

わたなべ こうへい
渡邊 康平スポーツ企画長
建築学科 3年

今年のスポーツ大会も工大祭の前日10月16日(金)に開催され、バスケットボール・ソフトボール・ミニサッカー・ドッジボール・バレーの5種目に364名の工大生の参加がありました。晴天に恵まれ、ケガ人も出ることなく、予定通り大会を運営することができました。参加した選手の方々が楽しそうに競技をしていて大変良い大会になったと思います。是非、来年多くの工大生が参加してくれることを楽しみにしています。



学科屋台・学科企画

2学部8学科の個性が光る 学科屋台&学科企画

今年から始まった学科屋台は、各学科の特徴を生かした様々な屋台が並び、売り切れ続出の大盛況でした。

学科企画では、例年以上に工夫を凝らした企画が増え、2日間とも大いに盛り上りました。



知能エレクトロニクス学科

学科屋台：味のしみた大根や卵などが好評だった「お電屋」。おいしいおでんをたくさんの方々が味わっていました。

学科企画：学生が来場者に研究室などを案内した「先端技術見て歩き」では、参加した高校生や子どもたちが、興味深そうに研究室やロボットなどを見学していました。



情報通信工学科

学科屋台：やきそばと情報通信工学科をJOINTした、「情報通信的モヤシやきそば」。食券をタブにかざすと電源が入り、作る人に注文が入ったことを知らせます。

学科企画：アルミホイルや100円ライターなど、すぐに手に入る身近な材料を使い、来場者がものづくり体験で電波探知機を作りました。



建築学科

学科屋台：建築関連書籍を展示・販売し、ケンチクの楽しさをたっぷりと伝えました。

学科企画：恒例の「colors workshop 2009」を開催。建築家アストリッド・クライン氏の講演会の後、「DISPLACEMENT20×20～キャンパス“裏”ガイドブックを作ろう～」をテーマに作業を行ないました。



建設システム工学科

学科屋台：長町キャンパス保存緑地内の間伐材や竹材などで加工したグッズを販売し、売上金を栗原市の方々に寄付しました。

学科企画：土木の日(11/18)記念参加行事として「第20回地域づくり公開講演会－雑誌『仙台学』づくりで見えてきたこと－」を開催。また、公開講座「緑の楽校」の取り組みをパネルで紹介しました。



環境情報工学科

学科屋台：伊豆沼で駆除したオオクチバスを使用し、昨年より食べやすくおいしくした「今年は本気のバスフライ」は大変好評でした。

学科企画：環境や食の安全を考える良い機会になって欲しいとの思いが詰まった「eカレー」。カレー粉から作るのに誰にでも簡単、おいしい！甘口と辛口があり、どちらも人気でした。



クリエイティブデザイン学科

学科屋台：学生が作ったオリジナルのポストカード・Tシャツ・シュシュを販売。シュシュは12種類あり、来場した女子高生に大人気でした。

学科企画：昨年に続き「真剣工大しゃべり場2009」を開催。「良いデザインとは何か？」をテーマに、工大OBのデザイナーと学生が、来場者の高校生も交えて熱く語りました。



安全安心生活デザイン学科

学科屋台：昨年の岩手・宮城内陸地震で大きな被害を受けた栗原市の方々と、SD学科の学生や教員が協力して復興市「ありがとう・くりはら元気物産市」を出店しました。

学科企画：クリエイティブデザイン学科との共同企画「Design×Sound=∞」では、デザインとサウンドのコラボレーションによる、新しい空間を表現しました。



経営コミュニケーション学科

学科屋台：「MCドナルド」では、ホットドッグとバナナドッグを販売し、2日とも用意した200個が完売するほど大好評でした。

学科企画：英語コンテストとカフェを企画。英語コンテストには2日間で80名の参加がありました。6種類の手作りスイーツが味わえる「Image Cafe」は、インテリアやメニューも学生がすべて手作りしました。

ライフデザイン学部共同企画 シンポジウム報告



オープンキャンパスのライフデザイン学部企画として、10月17日に『クリエイティブとマーケティングの協創』をテーマとしたシンポジウムが開催されました。

シンポジストとして、ともに仙台で活躍する藤崎快適生活研究所の池野文雄氏、電通東日本クリエーティブ部伊藤光弘氏、同じく営業部佐藤正文氏、そして経営コミュニケーション学科佐藤飛鳥講師に登壇いただきました。

佐藤講師にマーケティングの役割について話していただき、続いて伊藤氏に楽天のCM、池野氏に藤崎のポスターを題材にクリエイティブのコンセプトや表現について説明していただき、その後興味深いディスカッションが展開されました。

オープンキャンパスも大学祭と同時開催

OPEN CAMPUS '09
Enjoy 楽しむ、工大。



第3回オープンキャンパスのテーマは“楽しむ、工大。”どんなキャンパスライフを送っているのかサークル活動も気になるみなさんに、学生が企画・運営した盛りだくさんの内容を楽しんでもらおうと、今年最後のオープンキャンパスは大学祭と同時開催しました。

各学科の体験コーナーの他に、大学の雰囲気、施設や設備、サークル活動や先輩の姿など、大学の素顔に触れて楽しんでいただきました。

リフレッシュ理科教室開催



大学祭の1日目には、応用物理学会東北支部と本学の共催で「リフレッシュ理科教室～楽しく学ぶ組込みマイコン～」を開催しました。午前は小中学校教員対象の「組込みマイコン工作の基礎」をテーマに、組込みシステムの応用事例やプログラミング実習。午後は小学5・6年生及び中学生対象の「車輪型移動ロボットを動かしてみよう」をテーマに、ロボット工作やプログラミングを体験。その後、コースを使って早さを競う大会もあり、多くの小中学生が参加して楽しく体験学習を行なっていました。

後援会による大学見学会



本年度も工大祭の開催に合わせ、後援会の大学見学会が行なわれました。1日目は秋田・岩手・福島・新潟の各支部から、2日目は青森・山形の各支部から総勢170名のご父母と支部役員の方々が訪れました。大学祭の企画・展示の他に、福島県支部と秋田県支部は一番町ロビーの見学も行ないました。

また、新潟県支部では1日目に屋台の出店をし、新潟米や笹団子が当たるくじ引きが来場者に大変好評でした。

第24回 北海道工業大学・東北工業大学 総合定期戦報告

対戦成績

種 目	東北工業大学 対 北海道工業大学
サッカー	○ 3 — 2 ●
ラグビーフットボール	○ 17 — 10 ●
ソフトテニス	○ 4 — 1 ●
硬式テニス	● 1 — 4 ○
バスケットボール	● 71 — 95 ○
剣道	● 3 (引分) 3 ○ 内容勝ち
柔道	● 3 (引分) 3 ○ 内容勝ち
アメリカンフットボール	● — ○ 不戦勝
バレーボール	○ 3 — 2 ●
ハンドボール	○ 30 — 24 ●
弓道	● 85 — 89 ○
バドミントン	○ 3 — 2 ●
卓球	● 0 — 5 ○
総 合 成 績	6勝—7勝



硬式野球部 第35回 対千葉工業大学 定期戦を振り返って



総合定期戦を終えて



葛西 重信

学生部次長
環境情報工学科 准教授

第24回対北海道工業大学定期戦が8月25日(火)、26日(水)の2日間にわたって札幌の地で開催されました。本学からはフェリーで約250名の学生が仙台港を出発し、北海道に遠征しました。晴天にも恵まれ、チアリーダーアトラクションも含めた開会式からはじまり、白熱した13試合が展開されました。選手達はフェアプレーで日頃の練習成果を十分に発揮していました。今年も昨年と同じように6勝6敗と最後の種目で総合定期戦の勝敗が決定するという試合展開となりました。結果は僅差で本学が敗れましたが、親睦の深まる大会であったと思います。来年は東北工業大学での開催となりぜひ優勝旗を奪還することを期待します。



小山 純生

副実行委員長(学友会課外活動連合委員会事務局長)
建築学科 3年

私は今回の総合定期戦に副実行委員長として参加しました。惜しくも6勝7敗で総合優勝を逃してしまいましたが、選手たちの全力のプレーを見る事ができました。このことが、良い大会であったといえる根拠だと思います。

晴れ渡る青空の下、両校の白熱した試合をすることができたのは運営委員並びに実行委員の皆様の協力があったからこそだと思います。今後も定期戦が末永く続き、両校の絆が更に深まることを願っています。



三浦 茉奈

学友会学部学生会会長
環境情報工学科 3年

今年の総合定期戦は負けてしまいましたが、選手の皆さんのが試合から得たことは多くあったと思います。選手の皆さんには十二分に力を発揮し、それでいて試合をしている姿は楽しんでいるように見えました。試合を通してお互いの良いところを吸収しあい、自分達を高めあえたのだと思います。

また、今年も無事定期戦を開催することができ、実行委員の皆様のご協力に感謝いたします。今後も両大学の親睦が深まることを願っています。



小山 奈々絵

硬式野球部マネージャー
安全安心生活デザイン学科 2年

8月18日(火)、東北工業大学野球場を会場に、沢田康次学長に始球式を務めていただき定期戦が行なわれました。2回に1点を先制されましたが、3回に小野寺翔平(安全安心生活デザイン学科1年)・佐々木宏太(安全安心生活デザイン学科2年)による連続適時打で3点を返しました。その後4点を追加され、9回には赤間信之(環境情報工学科3年)が2塁打を打ちましたが、粘りきれず5対3で敗れてしまいました。懇親会の最後に、今日までの伝統をベースに今後ますますの両大学の交流と発展と飛躍を誓い、エールを交換し定期戦を終えました。

学生の自主活動⑫



イメージワークショップ写真展「R45—ひと・街・道—」
イメージの共有



みよし　まゆ
三好 真由

情報通信工学科 3年

img@tohtech(東北工業大学イメージワークショップ)の活動内容は、動画や写真、音響などを用いたイメージ世界の表現です。

2009年7月に、ふれあい塩竈エスプにて「R45—ひと・街・道—」をテーマに写真展を開きました。R45とは、仙台と塩竈を結ぶ国道45号線です。テーマを元に、ひとや社会のつながりを写真によるイメージで作りました。写真をブロック状にし、自由に動かしてもらい、その場で「道」を作り上げるものでした。

展示期間中には、子どもたちがブロックを手に取り、ストーリーを作ったり、同じ写真を並べてみたり、思いもよらない遊び方をしていました。

私たちは、この企画で実際に人や地域とのつながりを感じつつ、イメージの世界の豊かさを感じることができたと思います。



キューブイメージの写真



インタラクティブ写真



いちるは
壹式参横丁パンフレット制作



おおば ゆりえ
大場 由莉絵(左)
デザイン工学科 菊地研究室 4年
いわきり いすみ
岩切 泉(右)
デザイン工学科 幸岡研究室 4年

一番町壹式参横丁周辺地区の地域活性化を目的とした取り組みを進めているNPO法人まちづくりcom(まちづくりこむ)から菊地良覺准教授を通して壹式参横丁のマップリニューアルの依頼があり、ボランティアで工大の学生メンバーが主体となって取り組むことになりました。具体的には、壹式参横丁の催事の一つである「いろは横丁夏祭り」に合わせて、マップを盛り込んだパンフレットの制作をしました。壹式参横丁の店舗の店構えやにぎわいをマップに表すために現地に行き実測なども行いました。約1ヶ月という短期間で仕上げるのは大変でしたが、制作に関わったことによって学科や学年を超えたつながりができたことは何ものにも代えがたいものでした。今後も後輩に引き継いでいって欲しいと思います。



壹式参横丁夏祭りのイベント広場の様子



アーケードから見た壹式参横丁入口

教育実習



教育現場を肌で感じて

私は6月、母校である北海道帯広工業高等学校で2週間の教育実習を行ないました。短い期間でしたが、多くを学び、体験し、充実した毎日を送ることができました。

この実習で「先生」と呼ばれることに、戸惑いながらも喜びを感じると共に、生徒への一つ一つの発言が、大きな影響を与える立場であることに、責任の重さを感じました。

今回の実習を通じ、教員として教育現場で働く苦労、難しさを肌で感じました。しかしそんな中でも、生徒一人ひとりの笑顔の輝きは実習で一番の思い出です。たくさんの勇気、元気を生徒たちからもらいました。この教職課程で学んだ経験を、今後存分に活かし、社会人として仕事に励んでいきたいと思います。



生き方が学べる教職課程

佐藤 三之
共通教育センター教職課程部／客員教授

教職課程部は、教育免許状の取得や教員としての就職だけでなく、人間形成のサポートに力を入れています。

現4年生を含め、5年間で312名が教職課程の学習の総仕上げともいえる教育実習を経験しました。人間の成長の支援を目的とする学校教育に携わるには、自分の持っている知識、技能、感情、意志等のすべてをかけ全力で臨まなければなりません。教育実習はとても厳しいものですが、多くの大事なものを手に入れることができます。

学都仙台単位互換ネットワーク

学都仙台単位互換ネットワークの制度を利用して、他大学の講義を受講した学生の声をお届けします。

単位互換制度を利用して

鈴木 康太
電子工学科 4年



単位互換制度を利用して、東北大学の教養科目「日本の思想と歴史-国際共修ゼミ-」を学んできました。

講義のスタイルは、1コマ90分の間に二人が自分の発表したい内容を約20分プレゼンテーションし、残りの10分を質疑応答するという面白い講義でした。

受講生は、20人前後で、現役生から大学院の研究生まで国籍を問わず、上下関係など気兼ねすることなく接していました。分からなかったところや誤解していた部分も多々あり、まだまだ自分は、勉強不足だと痛感しました。

また、講義の仲間と帰りにご飯を食べに行ったり、世間話をしたりなど打ち解けることができたのが、なによりも一番楽しかったと思っています。

学都仙台単位互換ネットワークとは

東北工業大学は、学都仙台単位互換ネットワークに参加しています。学都仙台単位互換ネットワークは、この制度に参加する大学、短期大学、高等専門学校に在籍する学生が、他の参加校が開講する科目を履修し、取得した単位を在籍する大学等の単位として認定できる制度です。

参加校一覧 (平成21年度)

- 石巻専修大学
- 尚絅学院大学
- 尚絅学院大学女子短期大学部
- 聖和学園短期大学
- 仙台白百合女子大学
- 仙台高等専門学校
- 仙台大学
- 東北学院大学
- 東北芸術工科大学
- 東北工業大学
- 東北生活文化大学
- 東北生活文化大学短期大学部
- 東北大学
- 東北福祉大学
- 東北文化学園大学
- 東北薬科大学
- 放送大学
- 宮城学院女子大学
- 宮城教育大学
- 宮城大学

インターンシップ



人と環境の関りを学ぶ

実習先:東洋緑化株式会社



私は今回のインターンシップで、緑化事業の管理業務や植栽工事を経験しました。お客様が安全に施設を利用できるよう、公園・野球場などの環境整備、受付・収納業務、植栽工事などを経験させていただきました。ゴミ収集や除草作業を経験したこと、環境をキレイに保つことの大切さを改めて理解することができました。また、実際に現場で作業することで、業務に対して今までのイメージが大きく変わりました。

今回の経験をとおして、たくさんの方に支えられ働くことの責任や大変さを肌で感じることができ、これからの大学生活に活かせばいいと思います。そして、10日間という短い期間でしたが、この経験を今後の進路や就職活動に役立てていきたいです。

インターンシップスケジュール

時 期	行 事
5月	インターンシップ説明会
6月上旬	参加登録票提出
6月中旬～下旬	マッチング
7月上旬	参加意志確認
7月下旬	事前研修
8月～9月中旬	インターンシップ実施
9月下旬	事後研修
11月下旬	報告・発表会
1月下旬	単位認定申請
3月下旬	単位取得

詳しくはキャリアサポート課へお問い合わせください。

インターンシップ参加人数

学 科	人 数
知能エレクトロニクス学科	3名
情報通信工学科	11名
建築学科	12名
建設システム工学科	8名
デザイン工学科	37名
環境情報工学科	3名
合計	74名

(平成21年度)

就職情報

悔いを残さない就職活動を

古賀 秀昭



就職部長／環境情報工学科 教授

今年度も11月末となり、例年通りであれば就職戦線も終息に向かっているのですが、今年度の就職内定状況は本学も含めて全国的にどこの大学も苦戦を強いられています。そこで、沢田康次学長の提案で10月を就職対策強化月間として全学を挙げて就職支援の強化に努めましたが、劇的に向上するまでには至っていません。引き続き、11月も就職支援を強力に推し進めているところです。

10月22日には4年生の未内定者を対象とした本学初の学内合同企業説明会を、八木山キャンパス講堂(体育館)を会場にして開催しました。多くの企業がもうすでに採用活動を終えている状況の中、本説明会には39社の企業の参加をいただき、無事終えることができました。

未内定の学生の皆さんには、これまでの活動はその企業との縁がなかったのだと割り切って、新たな就職活動へと進んでください。これまでの企業選択の視点を変えてみることも必要です。

3年生の皆さんのが来年度就職活動も少しずつですが始まります。「就職の手引き」もすでに配布しておりますので、それを大いに活用してください。本格的な就職活動までに自己分析を行なっておくことが大事です。いよいよこれから3年生の皆さんを対象とした本格的な支援行事が下表のようなスケジュールで行なわれます。皆さんのが全ての行事に参加し、悔いを残さない就職活動ができるようことを切に念願しています。



学内合同企業説明会の様子

今後の主な就職支援行事について

時 期	就職支援行事	対象学年
21年12月	上旬 学科就職ガイダンス(進路調査書記入説明、就職模擬テスト・就職企業説明会案内)	3年生各学科
	11日(金) 午後休講 模擬面接	3年生
	12日(土) 就職模擬テスト(就職適性検査、就職実践模試、エントリーシート対策)	3年生
22年1月	12日(火)～ 15日(金) 進路調査書提出期日	3年生
	2月 1日(月)・ 2日(火) 本学主催合同企業説明会	3年生
3月	上旬 公務員・民間就職試験対策講座(6日間)	2年生 3年生

この他にも随時、就職支援事業を開催予定ですので、詳細が決定次第お知らせします。

工学部「情報通信工学科」松田勝敬 研究室

MATSUDA Masahiro Laboratory

世界中で使われており、無くてはならないものになったインターネット。松田研究室では、そんなインターネットの技術について研究を行なっています。特にインターネットと接続することができる、小さなコンピュータの開発やそれを用いたセキュリティ機器の研究、インターネットの仕組みを使っている緊急地震速報の通信に関する研究に力を入れています。これらの研究は、それぞれ企業と共同研究・開発を進めており、実際に世の中で使われるシステムをつくり上げることを目標に、大学院生と卒業研究生が一体となって研究活動をしています。



学生へのメッセージ



まつだ　まさひろ
松田 勝敬
情報通信工学科 准教授

大学や研究室で学べることは、授業や研究のことだけではありません。研究室では、先生と学生、先輩と後輩、立場や考え方方が違ういろいろな人たちが、一つに集まって研究生活を送る場所です。「何事にも全力を尽くす！」をモットーに、研究や勉強だけでなく、息抜きや休憩、趣味の時間にも一生懸命取り組んで欲しいと思います。意識して充実した濃い毎日を過ごしていると、あるとき自分の進歩を実感することができます。今までと同じ毎日ではなく、これまでと違った時間を研究室で過ごしてみるのもよいのではないでしょうか。

学生の声



ささき　ひろゆき
佐々木 宏幸
大学院博士前期課程 松田研究室 1年

私たちの研究室ではネットワークに関する研究を行なっており、その中でも私はセキュリティに関する研究を行なっています。セキュリティ機器に従来よりも安価な組込み機器を用いることで、手軽なセキュリティシステムを実現するのが目標です。大学院の授業をこなしながらの研究は、大変なものがあります。後輩が配属され、指導する立場にもなり、大学院生としての自覚が日々強くなっていくを感じます。その中でも、新しい知識の発見や、思い通りのプログラムが完成した時は、充実感を得ることができます。



いずみわき　かおり
泉澤 香織
情報通信工学科 松田研究室 4年

私が所属している松田研究室では、コンピュータのネットワークからハードウェアに及ぶ分野を対象とした研究開発を行なっています。その中で、インターネット回線を使った緊急地震速報の通信品質に関する研究に取り組んでいます。地震が起きたとき、確実に端末に情報を送信できるようにするのが、私に与えられたテーマです。研究は大変ですが、周りの人達と楽しく充実した日々を送っています。

大学院で学ぶ

本学の大学院工学研究科には6つの専攻があり、全ての専攻に前期・後期課程が設置されています。本格的に専門を学ぶ学生を対象に多彩な分野とともに、徹底された研究環境が用意されています。2012年4月にはライフデザイン学研究科(仮称)開設を予定しております。大学院への積極的な進学を期待しています。

電子工学専攻	通信工学専攻	建築学専攻																																
<p>電子工学はITを支える基幹技術であり、材料・物性からデバイス・装置、計測・制御、システムまでの広い分野を扱う学問です。博士前期課程では高度なエンジニアの育成を目標に、博士後期課程では、研究者、教育者、プロのエンジニア育成を目標に、研究を主とした教育を行っています。</p> <table border="1"><thead><tr><th>博士前期課程</th><th>博士後期課程</th></tr></thead><tbody><tr><td>● 電子物理工学部門</td><td>● 電子物理工学部門</td></tr><tr><td>● 電子デバイス・材料工学部門</td><td>● 電子デバイス・材料工学部門</td></tr><tr><td>● 電子計測・制御工学部門</td><td>● 電子計測・制御工学部門</td></tr><tr><td>● 電子・光子応用工学部門</td><td>● 電子・光子応用工学部門</td></tr></tbody></table>	博士前期課程	博士後期課程	● 電子物理工学部門	● 電子物理工学部門	● 電子デバイス・材料工学部門	● 電子デバイス・材料工学部門	● 電子計測・制御工学部門	● 電子計測・制御工学部門	● 電子・光子応用工学部門	● 電子・光子応用工学部門	<p>通信工学は広く情報を工学的に扱う学問です。社会は通信技術とコンピュータによる情報処理技術とが結び付いて高度に情報化され発展しています。通信工学専攻では、高度情報通信社会を担う人材の育成を目指し、専門分野における研究者あるいは高度な専門知識を有する技術者の育成を目指します。</p> <table border="1"><thead><tr><th>博士前期課程</th><th>博士後期課程</th></tr></thead><tbody><tr><td>● 光通信工学部門</td><td>● 光通信工学部門</td></tr><tr><td>● 環境通信工学部門</td><td>● 環境通信工学部門</td></tr><tr><td>● 情報基礎工学部門</td><td>● 情報基礎工学部門</td></tr><tr><td>● 情報処理工学部門</td><td>● 情報処理工学部門</td></tr></tbody></table>	博士前期課程	博士後期課程	● 光通信工学部門	● 光通信工学部門	● 環境通信工学部門	● 環境通信工学部門	● 情報基礎工学部門	● 情報基礎工学部門	● 情報処理工学部門	● 情報処理工学部門	<p>前期課程、後期課程それぞれに5研究部門があります。芸術文化史、造型デザイン、建築計画、都市環境学、材料科学、構造工学等、建築の創造性の裏付けとなる研究分野をこれらの部門にまとめ、大学院生が多岐にわたる建築の基礎を身につけ、創造性を育成します。</p> <table border="1"><thead><tr><th>博士前期課程</th><th>博士後期課程</th></tr></thead><tbody><tr><td>● 建築史・意匠部門</td><td>● 建築文化史部門</td></tr><tr><td>● 建築・都市計画部門</td><td>● 建築・都市計画部門</td></tr><tr><td>● 建築生産工学部門</td><td>● 建築生産工学部門</td></tr><tr><td>● 建築環境工学部門</td><td>● 建築環境工学部門</td></tr><tr><td>● 制振構造学部門</td><td>● 制振構造学部門</td></tr></tbody></table>	博士前期課程	博士後期課程	● 建築史・意匠部門	● 建築文化史部門	● 建築・都市計画部門	● 建築・都市計画部門	● 建築生産工学部門	● 建築生産工学部門	● 建築環境工学部門	● 建築環境工学部門	● 制振構造学部門	● 制振構造学部門
博士前期課程	博士後期課程																																	
● 電子物理工学部門	● 電子物理工学部門																																	
● 電子デバイス・材料工学部門	● 電子デバイス・材料工学部門																																	
● 電子計測・制御工学部門	● 電子計測・制御工学部門																																	
● 電子・光子応用工学部門	● 電子・光子応用工学部門																																	
博士前期課程	博士後期課程																																	
● 光通信工学部門	● 光通信工学部門																																	
● 環境通信工学部門	● 環境通信工学部門																																	
● 情報基礎工学部門	● 情報基礎工学部門																																	
● 情報処理工学部門	● 情報処理工学部門																																	
博士前期課程	博士後期課程																																	
● 建築史・意匠部門	● 建築文化史部門																																	
● 建築・都市計画部門	● 建築・都市計画部門																																	
● 建築生産工学部門	● 建築生産工学部門																																	
● 建築環境工学部門	● 建築環境工学部門																																	
● 制振構造学部門	● 制振構造学部門																																	
土木工学専攻	デザイン工学専攻	環境情報工学専攻																																
<p>4部門で構成され、空間環境の概念を創造し利用する研究、地上・地中におけるハザード環境及び安全環境等の研究、構造物の力学、材料に関する研究を行っています。国土・都市の総合的な開発と環境管理に関する学識的な視野を持つ、優れた技術者および研究者の育成を目指しています。</p> <table border="1"><thead><tr><th>博士前期課程</th><th>博士後期課程</th></tr></thead><tbody><tr><td>● 社会基盤計画学部門</td><td>● 社会基盤計画学部門</td></tr><tr><td>● 地図環境防災工学部門</td><td>● 地図環境防災工学部門</td></tr><tr><td>● 水圏環境防災工学部門</td><td>● 水圏環境防災工学部門</td></tr><tr><td>● 土木材料構造工学部門</td><td>● 土木材料構造工学部門</td></tr></tbody></table>	博士前期課程	博士後期課程	● 社会基盤計画学部門	● 社会基盤計画学部門	● 地図環境防災工学部門	● 地図環境防災工学部門	● 水圏環境防災工学部門	● 水圏環境防災工学部門	● 土木材料構造工学部門	● 土木材料構造工学部門	<p>生活をより豊かにする表現・伝達手法や、道具・空間環境を、生産から保全手法も含めて調査・計画し、具体化できる人材育成を目指しています。そのために、これまで以上に各領域で得られた知見を尊重しつつ統合できる力を高める必要があります。そうした社会の要請に応えるため、4つの部門で構成されています。</p> <table border="1"><thead><tr><th>博士前期課程</th><th>博士後期課程</th></tr></thead><tbody><tr><td>● 産業デザイン計画部門</td><td>● 産業デザイン計画部門</td></tr><tr><td>● 環境造形計画部門</td><td>● 環境造形計画部門</td></tr><tr><td>● 福祉デザイン計画部門</td><td>● 福祉デザイン計画部門</td></tr><tr><td>● 生活デザイン科学部門</td><td>● 生活デザイン科学部門</td></tr></tbody></table>	博士前期課程	博士後期課程	● 産業デザイン計画部門	● 産業デザイン計画部門	● 環境造形計画部門	● 環境造形計画部門	● 福祉デザイン計画部門	● 福祉デザイン計画部門	● 生活デザイン科学部門	● 生活デザイン科学部門	<p>納得のいくまで実際のフィールドに身をおき、調査・観測を行います。そこでは、プログラム作成からデータ解析、そしてその評価を元にした対策方法まで行います。自らのアイデアによる研究ができる環境の提供に努力しています。</p> <table border="1"><thead><tr><th>博士前期課程</th><th>博士後期課程</th></tr></thead><tbody><tr><td>● 環境情報処理工学部門</td><td>● 環境情報処理工学部門</td></tr><tr><td>● 大気・水環境保全工学部門</td><td>● 大気・水環境保全工学部門</td></tr><tr><td>● 都市環境保全工学部門</td><td>● 都市環境保全工学部門</td></tr><tr><td>● 環境情報計測工学部門</td><td>● 環境情報計測工学部門</td></tr></tbody></table>	博士前期課程	博士後期課程	● 環境情報処理工学部門	● 環境情報処理工学部門	● 大気・水環境保全工学部門	● 大気・水環境保全工学部門	● 都市環境保全工学部門	● 都市環境保全工学部門	● 環境情報計測工学部門	● 環境情報計測工学部門		
博士前期課程	博士後期課程																																	
● 社会基盤計画学部門	● 社会基盤計画学部門																																	
● 地図環境防災工学部門	● 地図環境防災工学部門																																	
● 水圏環境防災工学部門	● 水圏環境防災工学部門																																	
● 土木材料構造工学部門	● 土木材料構造工学部門																																	
博士前期課程	博士後期課程																																	
● 産業デザイン計画部門	● 産業デザイン計画部門																																	
● 環境造形計画部門	● 環境造形計画部門																																	
● 福祉デザイン計画部門	● 福祉デザイン計画部門																																	
● 生活デザイン科学部門	● 生活デザイン科学部門																																	
博士前期課程	博士後期課程																																	
● 環境情報処理工学部門	● 環境情報処理工学部門																																	
● 大気・水環境保全工学部門	● 大気・水環境保全工学部門																																	
● 都市環境保全工学部門	● 都市環境保全工学部門																																	
● 環境情報計測工学部門	● 環境情報計測工学部門																																	

東北工業大学大学院の特徴

平成4年に設置された本学の大学院はこれまで約450名の修士、博士の学位授与者を輩出しています。これらの修了者は様々な分野で高度な技能を有する技術者・研究者として活躍しています。本学には推薦入学試験制度があります(4年次までに平均点75点以上の優秀な成績を修めた者は面接試験のみの制度)。また、院生への様々な経済支援を施しています。たとえば、本学の卒業生は入学金、設備負担金が免除され、授業料と学生諸費分担金のみの納入で済みます。さらに、本大学院の経済支援の最大の特徴として、すべての大学院生に対して、指導教員の研究補助(リサーチアシスタント)として、1人2万円、年額24万円を支給する制度があります。

大学院修了生の声

スマールタイタンから学ぶ

しょうじ ゆういち
莊司 雄一

株式会社復建技術コンサルタント勤務
土木工学専攻 博士(後期)課程 神山研究室 2002年修了

同じ地震でも、地域によって揺れの大きさが違うことは、知られています。それを観測による事実を積み重ねて、実態を明らかにすることが、私の大学院のテーマです。本学には世界的にも注目されている強震観測システムがあり、名前をスマールタイタンと言います。

昨年、岩手・宮城内陸地震で被災した祭時大橋の復旧業務に係わりながら、そう言えば、スマールタイタンの記録の中に、直下型地震の貴重な記録があったな、と思い出しました。

もう一度、この記録にスポットを当ててみようかな、と思っている今日この頃です。

大学院生の声

自分を見つめ直す場所

えんどう はなえ
遠藤 英恵

建築学専攻 阿部研究室
制振構造学部門 博士(前期)課程 2年



大学と大学院の違いを分かり易くすると、「学生から研究者へ」と言った方が分かり易いかと思います。この先生から学びたい!と思った先生の下で「師匠と弟子」の関係に似た形で勉強する、それが大学院という所です。また大学院ではたくさんの挑戦をし自分を見つめ直す場があります。これまでの2級建築士の取得、学会への参加、そして今取り組んでいる修士論文等どれも私にとっては挑戦であり、それと同時に自分と自分の将来を見つめ直す機会となりました。「この先生の下で学びたい!」「もっと自分を邁進させて行きたい!」という方は是非大学院へ。

公開講座（地域貢献）

緑の楽校

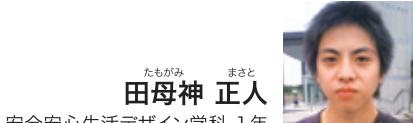
緑の楽校は、4月から来年3月までの1年間、月1回土曜日に長町キャンパスで開講しています。座学と実習で地域住民と学生が一緒に、地元の植物や自然について学ぶ公開講座です。



長町キャンパスでの楽校風景

学生の声

緑の楽校に参加して



緑の楽校では建設システム工学科の松山正将教授や樹木医太田成一氏の講義の他、天気がよければ外に出て実習も行なっています。

講義では大年寺山の木々の歴史や樹木の身体測定の仕方、位置情報の決め方などを学びました。また講義中は熱心な市民の方々から質問や意見が飛びかうなど、非常に活気がありました。実習では、キャンパス内の緑地を散策したり、木を切って年輪の観察をしたりしました。参加していた市民の方々は元気な方ばかりで、積極的に活動していました。

現在、緑の楽校の会員は市民の方が主なので、学生にもぜひ参加してほしいです。

出前授業

初めての連携模擬授業

かみやま まさと
神山 真
工学部長／環境情報工学科 教授



7月27日から4日間、高大連携による珍しい模擬授業が仙台東高校を会場として行なわれました。これは本学が同高校に呼びかけ実現したもので、高校側と本学の協議に基づいて実施された初めての模擬授業です。今回の模擬授業は同高校の教育目標である国際交流に合わせて、「人間・経済・技術の国際交流-内から外から-」というテーマで企画されました。本学の4人の教員（経営コミュニケーション学科の阿部敏哉教授、知能エレクトロニクス学科の佐藤悠介助教、クリエイティブデザイン学科の梅田弘樹准教授、建築学科の許雷講師）のそれぞれの専門の授業を約60人の生徒、教諭が熱心に聴講しました。授業後の質疑応答も活発で充実した模擬授業となりました。



阿部 敏哉 教授(経営コミュニケーション学科)



佐藤 悠介 助教(知能エレクトロニクス学科)



梅田 弘樹 准教授(クリエイティブデザイン学科)



許 雷 講師(建築学科)

先生のホンネ ⑤

教室では語れない学生へ向けた先生のホンネを聞きました。

もっともっと背伸びを！



わたなべ ひろのり
渡邊 浩文
建築学科 教授

普段から建築学科の学生たちとはホンネで接している私ですので、日頃から口酸っぽくお話をしていることを記します。それは「もっともっと背伸びして欲しい」ということです。学生の皆さんには、学修も友人との語らいもクラブ活動もアルバイトも、気持ちの目盛130%位のポジティブさで打ち込んで欲しいものです。ひとつのことだけではいけません。少なくとも二つ(学修含めて)、可能なら興味あるすべてに対して。心も身体も頭も鍛えれば強くシャープになります。自分が変わり今まで見えていなかったことが見えてきたりします。是非是非。



八木山南団地斜面緑道の冷気流測定の様子



研究室ゼミ直後の風景

備えあれば憂いなし



ちば のりゆき
千葉 則行
建設システム工学科 准教授

昨年起きた岩手・宮城内陸地震による山腹斜面のダメージは予想よりはるかに大きく、被災斜面の調査時は常に危険と裏腹の状態です。また熊などにも襲われる危険もあります。調査前にはあらゆる危険を想定し、調査ルートの設定、装備を綿密に準備して調査に臨んでいます。『備え』の有無が生死を分けるといっても過言ではありません。

翻って、定期試験に一発で合格する学生をみると、試験準備(備え)を怠っていないようです。逆に、「備えもなければ憂いもない(?)」学生は再試験でも間違なく落ちています。何事も「備え」が大事です。



地震で発生した大規模崩壊斜面(丸枠内:人です)



研修生と現地調査(右下丸枠内:熊の足跡です)

見分ける能力



しきはら りょうた
篠原 良太
クリエイティブデザイン学科 講師

世の中にはたくさんのモノがあふれています。その中で、「あ、これかっこいい」と感じるモノと「なんだかこれマイチだな…」と感じるモノがありますよね。いろいろなデザイン表現をしていくうえで、良い表現・良くない表現を見分ける能力は、とても重要です。そして、その見分ける能力を、自分自身のクリエイティブ表現に対して向けていきましょう。熱い情熱がモノを作るときに一番大事なのは言うまでもありませんが、制作途中で、ふと立ち止まり、作っているモノが「良いのか良くないのか」を、判断することも重要なことです。



研究室にて



課題アニメーションの講評風景

国際交流シリーズ②

広州大学との環境まちづくり国際交流セミナー

7月27日(月)から31日(金)までの5日間、広州大学との「環境まちづくり国際交流セミナー」が開催されました。本学八木山キャンパスでの、両大学の先生方及び学生の研究発表や学内の見学の他に、学生同士の交流パーティー、宮城県図書館・メディアテークなどの建築物の見学も行ないました。



建築学科の卒業制作模型見学



渡部修也さんの熱帯地域の植物や植林についての研究発表

参加した学生の声

新しい交友関係と、すばらしい経験

わたなべ しゅうや
環境情報工学科 4年



学生同士のパーティーは約20名の参加でしたが、話してみると日本人か中国人か区別がつかないことは、同じアジア人を強く感じさせ、欧米出身の友人たちとは異なる親近感を感じました。

学生発表では、熱帯地域の植物や植林について英語で発表を行ないましたが、今までに学んだ知識を人前で整然と発表する難しさを痛感しました。発表は成功とは言えませんでしたが、今後も熱帯植物の勉強に対して広州大学の皆さんにご協力いただけるとのことで、新しい交友関係やすばらしい経験を手に入れたと思います。

日本の教育施設を体験

ジェ ヨンイン
簡泳茵 (広州大学)



今回の国際交流セミナーは珍しいチャンスと考えています。私達は広州大の代表として東北工大の学生のみなさんと専門知識を交流し、お互いの進歩を促しました。私にとって、いろいろなことを見て、非常に勉強となりました。

セミナーや見学を通して、たくさんの知識を学んだと同時に、自ら日本の教育施設を体験し、長い間憧れていた伊東豊雄さんの仙台メディアテークにも行きました。

東北工大のみなさんには親切にしていただき大変感謝しており、忘れられない良い思い出になると信じています。

新たな知識と体験

チョウ ソウイ
張卓伊 (広州大学)



初めて日本、仙台に来て、とても感動しました。見学内容は豊富かつ充実したものであり、仙台の有名な古い建物、新しい建築を自ら体験、感知し、日本建築への認識をさらに深め、知見を得られました。日本の様々な建築に触れ、建築学専門の私にとって、大変勉強になりました。

東北工大の先生、学生の皆さんには大変感謝しており、私たちにとって、今回のセミナーは大変役に立つと思っています。今後も交流、理解がより一層深まる 것을期待しています。

充実した7日間

チン スエ
陳思慧 (広州大学)



日本の東北工業大学に来て国際交流・学習活動に参加でき、とても嬉しく思います。今回の国際交流セミナーでは、環境情報工学科や建築学科などの見学、先生の講演や学生の発表会を通じて、日本における都市環境の整備、環境汚染の対策についての現状や先進技術を学びました。セミナーのほかに、日本文化への認識、理解を深め、日本の生活の息吹に深い感銘を受けました。短かった7日間の交流・学習活動が充実して、楽しく良い思い出がたくさんでき感謝しております。是非広州大学にもいらしてください。

ウェルネスセンターより

学生同士が助け合う場所「トポステンポ」プレオープン!

オープンは2010年4月ですが、11月から
プレオープンしています。詳しくはウェル
ネスセンター・カウンセリングルームまた
は事務室までお問い合わせください。

トポステンポの目的

学生のキャリア発達を支援するため、学生同士が自分にできることを模索し、互いに提供しあうことで相互扶助的なコミュニティを形成する。

トポステンポの方法

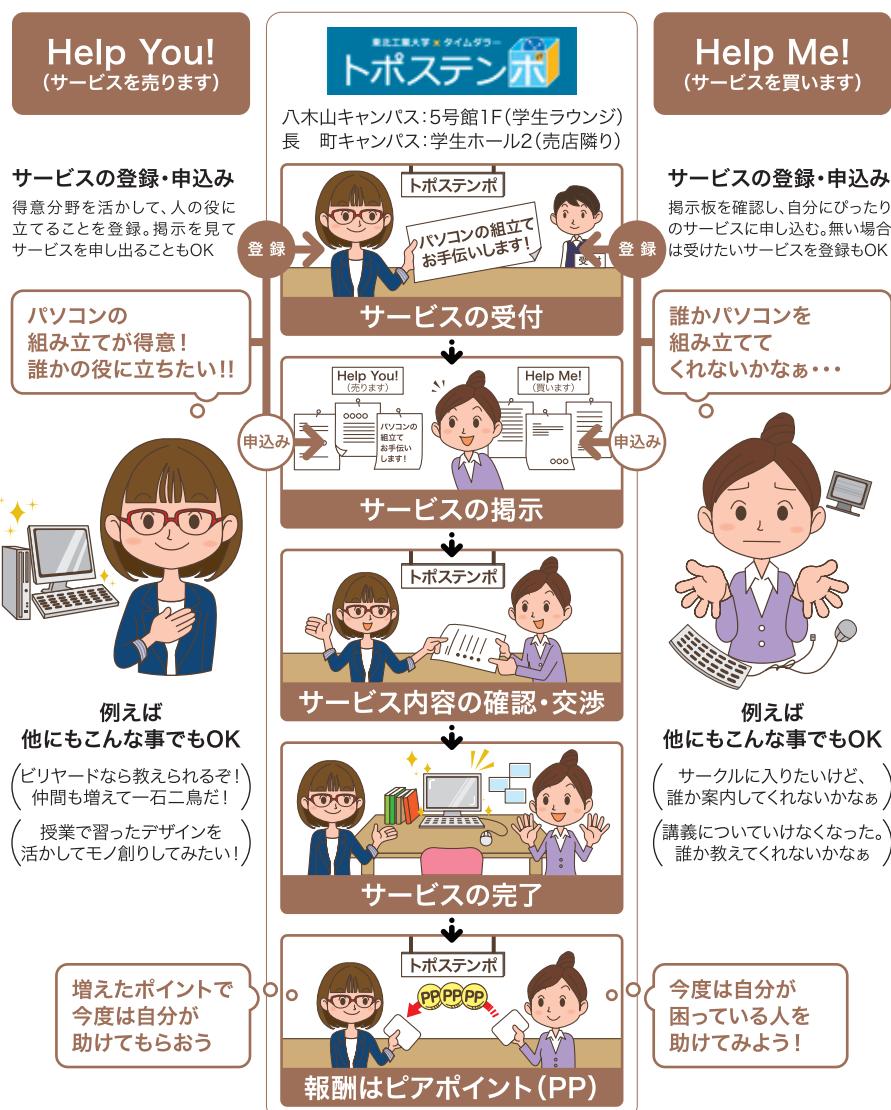
「場=トポス」と「時=テンポ」を提供するトポステンポ(店舗)を学内に設置します。トポステンポに掲示された、学生が提供するサービスを、利用したい学生が学内専用通貨(ピアポイント)を支払います。最初に10ピアポイント入ったカードがもらえるので、まずは気軽に利用してみませんか。

こんなときを利用してみよう!

大学生活の中で
困ったとき、助けて欲しいとき

自分の得意分野で
困っている人を助けたいとき

何ができるかわからないけれど
誰かの役に立ちたい



新型インフルエンザ対応について

ほとんどの人が新型インフルエンザに対する免疫を持っていないことから、発症または予防接種によって免疫が行き渡るまで、若年層を中心に流行が波状的に続くことは避けられないことを認識しましょう。

発症・疑わしい場合	発熱等の兆候時は、速やかに大学へ連絡し、発症後は、他者への感染を防ぐために発症後7日間の欠席・欠勤措置をし、必ず外出の自粛をしましょう。
学校・施設等における一般的な予防措置	<ul style="list-style-type: none">手洗いやうがい、アルコール剤による手指消毒をこまめに行います。登校・出勤前の検温を是非とも習慣づけましょう。発症が疑われたら、マスクを着用します。毎日交換するのですが、入手できない場合、ガーゼを重ねて自作してもよいでしょう。
多数集合する行事	学内、学外で開催する行事参加については、有症者は拡大防止のため参加を控えましょう。

PROFILE

経営コミュニケーション学科

わたなべ じゅんいち

渡部 順一 教授

経営コミュニケーション学科

あべ としや

阿部 敏哉 教授



が 紹介



理論と実践の融合を目指して

渡部先生は、慶應義塾大学法学院を卒業後、20年にわたり民間企業に勤務され、特許管理や研究開発の仕事に従事されました。その後東北大学大学院経済学研究科で経済学博士の学位を取得され、福島工業高等専門学校コミュニケーション情報学科教授を経て、2008年4月より本学科で教授を務められています。経営学の研究者の中には実務経験を持たない方も少なくありませんが、渡部先生は豊富な実務経験を踏まえ、理論と実践の融合を目指されている極めて意欲的な研究者・教育者と言えるのではないかと思います。

トピックス



国際野球選手権準優勝

ごとう ひろき
後藤 洋樹(知能エレクトロニクス学科 3年)

私はこの度、仙台六大学野球連盟選抜チームに選ばれ、8月初旬にハワイで行なわれた国際大会に出場しました。大会の結果は準優勝で、優勝にはあと一步という惜しい結果でした。しかし、東京六大学選抜チームに勝利するという素晴らしい結果を残すことができました。優勝することはできませんでしたが、他大学の選手との交流、日本とは違う環境での野球と生活は優勝よりも素晴らしい経験と思い出を残すことができたと思います。最後に、国際大会で応援してくださった方々ありがとうございました。



東北工大は地域の宝物

附属図書館長町分館

8月の長町分館一般開放は、利用者が毎年増え地域に定着しつつあります。中には期間後も散歩の途中に利用されるご近所の方もいらっしゃるようです。

館内展示コーナーでは、市の補助を得て本学が5月より開催している公開講座「緑の楽校」(企画代表:建設システム工学科松山正将教授)を企画。

街路樹や公園の樹木の剪定に携わっておられる樹木医・田代成一氏のご協力による写真展などに、多くの感想が寄せられました。

(タイトルは利用者の感想から)



硬式野球部の3名が個人タイトル獲得

8月22日から10月4日まで開催された仙台六大学野球秋季リーグで、硬式野球部の3名が個人タイトルを獲得しました。秋季リーグの結果は4位でしたが、メンバー全員の活躍により、春季リーグへ期待が持てます。

あべ しょうた
阿部 勝太(環境情報工学科 3年)
最多打率賞及び、ベストナイン

かとう だいすけ
加藤 大輔(経営コミュニケーション学科 1年)
ベストナイン

ささき ひであき
佐々木 英哲(環境情報工学科 2年)
最多打点賞・最多本塁打賞及び、ベストナイン

写真上段左上から時計回りに佐々木英哲、加藤大輔、阿部勝太、硬式野球部顧問 浅井和弘教授(環境情報工学科)、沢田康次学長

キャンパス短信

9/2(水)-4(金)

第8回情報科学技術フォーラム(FIT2009)が本学八木山キャンパスで開催され、岩崎俊一理事長が「垂直磁気記録-その開拓と実現-」と題して特別基調講演を行いました。

9/9(水)

白石工業高校との高大接続研究事業による、昨年10月から1年間の講義の修了式が白石工業高校で行なわれ、24名が修了しました。

9/18(金)

福島県の富岡第二中学校105名の生徒の皆さんのが、本学八木山キャンパスの施設見学及び学食体験を行ないました。

9/26(土)

広瀬川1万人プロジェクト(一斉清掃)が行なわれ、環境情報工学科より93名の学生と教職員が参加しました。

今号から工大広報はリニューアルいたしました。これからも東北工業大学の今を読みやすく伝えていきます。
東北工業大学広報委員会ではより良い誌面作りのために、読者の方々のご意見やご感想をお待ちしています。